

地域のみんなで防災・減災！

事例をもとに自分たちの地域でどのようなことが必要とされているのか、どのようなことができるのかをそれぞれの立場から考える。
地域ですべきことを具体的に考え、最後に簡単な提言、提案としてまとめる。

目安時間	70分	手法	事例の紹介、ラベルワーク
準備するもの	ワークシート(A・B)、付せん紙、模造紙、筆記用具、ペン、事例の紹介資料、「災害への備え」(栃木県発行のリーフレット)		
想定する学習機会	自治会、自主防災組織の会議、サロンなど		

ワーク1 体験談や事例から学ぶ(15分)

①事例の紹介資料を読む。

※過去の災害時にあった出来事の例

- ・地域のつながりがあったことで避難がスムーズにできたという事例
- ・自分のことは自分で守れるように、普段からの教えや訓練が大切だったという事例

②気づいたことなど、感想をグループ内で発表する。

ワーク2 それぞれの立場から、できることや、やってほしいことを考える(25分)

ワーク1の事例を参考にしながら、自分たちの地域では、どのようなことをすべきか、それぞれの立場でできることやできそうなこと、できたらよいこと、やってほしいことなどを付せん紙に書く。

①模造紙にまとめる。

②グループで、付せん紙に書いたことを発表しながら意見を交換する。

③同じような意見をまとめて、小見出し(タイトル)をつける。

ワーク3 地域ぐるみで取り組める防災・減災について考える(20分)

ワーク2でまとめたことをもとに、地域ぐるみで防災・減災をするために、自分たちはどのようなことから取り組めるか、グループ内の意見をまとめる。

まとめた意見を「提言・提案書」として作成し、発表する。

①提言や提案は、文末の例を参考にして3つ作成する。
(文末は、例以外も認める。3項目ごとに別々の文末でもよいこととする)

②グループごとに作成した提言や提案を発表する。

まとめ・ふりかえり等(10分)

別紙「災害への備え～被害を減らすために大切なこと～」を確認する。

今回の活動をとおして感じたことをグループで交流する。

地域の人のつながりが、減災につながるようになったか。

地域ぐるみでできそうなことを考えることができたか。